

わがまち紹介

歴史の深い 「もてなし」のまち 天満

まほうびん記念館見学

10月17日(木) 大阪天満宮駅に全員集合、大阪天満宮に参拝し、魔法瓶記念館へと行きました。

天満

大阪市北区南東部、大川(旧淀川、別称天満川)右岸一帯の地区です。地名は天暦3(949)年創建と伝えられる天満宮の所在に由来します。江戸時代は大坂三郷の1つ、天満組の市街地で、淀川水運を利用して天満青物市場が設けられ商況活発であった。明治3(1870)年河岸の川崎に造幣寮(現造幣局)が設置され、大阪の近代工業の発祥地となりました。

周辺には金属、ガラス、繊維などの工業が発達した。JR天満駅と天神橋の間は天神橋筋商店街の繁華街をなす。天満宮の天神祭は京都の祇園祭とともに、夏祭りの代表として有名です。

天満宮

奈良時代白雉元年(650年)孝徳天皇が難波長柄豊崎宮をお造りになったところ、都の西北を守る神として大將軍社という神社をこの地に祀られた。

平安時代延喜元年(902年)天満宮の御祭神である菅原道真公は太宰府へ向かう途中この大將軍社にお参りになり旅の無事を御祈願なされた。



大阪天満屋宮御本殿

その後道真公は、太宰府において、お亡くなりになり、その50年あまり後の天暦三年(959年)この大將軍社の前に一夜にして七本の松が生え、夜毎にその梢を光らせたと言われています。

これをお聞きになった村上天皇は、勅命によって、

ここにお社をお造りになり、道真公の御霊を厚く祭られた。以来、一千有余年、氏子大阪市民はもとより広く全国より崇敬を集めています。

大將軍社



大將軍社

菅公が大宰府に向かう前に参拝したという大將軍社は、境内の西北に鎮座しています。

天満宮の御鎮座よりも500年遡った900年に創建されています。大將軍社があった場所に、大阪天満宮が創建されたことになりました。

天満天神繁昌亭

上方落語は300年の歴史を誇る上方の伝統笑芸です。大阪天満宮界隈にも、戦前は8軒の寄席がありましたが、戦後は1軒もなくなりました。

寄席の復活を願う上方落語協会の申し出に、街



天満天神繁昌亭

の活性化を目指す天神橋筋商店連合会が賛同し、大阪天満宮から敷地の無償提供を受けることで永年の夢が実現しました。建設費は一般市民や企業からの募金でまかなわれています。

大阪と魔法瓶

魔法瓶の生産シェアは、日本では圧倒的に大阪が占めています。そして国産魔法瓶が誕生したのも大阪でした。

日本で魔法瓶が製造され始めた大正初期から昭和初期にかけて、大阪は日本のガラス工業をリードする地域でした。そのため、魔法瓶の中びんを作る優秀なガラス職人も大阪に集中し、大阪は日本の魔法瓶工業の中心地となった。

なぜ魔法瓶は動物の名前の会社が多いのかをまとめてみました。

①当時壊れやすかった魔法瓶のイメージを払拭するために強い動物名を名付けた

②東南アジアへの輸出で現地では馴染みのある象や虎や孔雀などを商品名に冠した

③同業社の横並びの対抗意識から動物名になってしまった

まほうびん記念館

「真空の力」による保温・保冷技術が誕生して100年あまり。

象印マホービン株式会社は、日本の魔法瓶草創期から真空のテクノロジータを基本に、かずかずの製品を開発し、「人」と「暮らし」を接点に歩んでいる。



まほうびん記念館内にて

90周年を迎えた象印マホービン(株)は、人類が発見した偉大なサーモテックノロジーとその進化をたどる記念館を設立した。魔法瓶と生活用品を研究・開発するすべての

人々と、新しい明日に向かって歩むすべての人々にとって、この記念館が新しい発想を生むきっかけになることを祈っている。

大阪天満宮境内の星合の池に架かる星白橋を渡ると「星合茶寮」です。すべらんうどんは麺の縦に切れ目が入っていて、箸からすべりにくいのです。受験生の願いで人気のあるうどん屋さんです。



大阪天満宮境内の星合茶寮にて“すべらんうどん”を楽しむ